

資料によれば砲塔の上部右側には車長や砲手用のハッチが、左側には装填手用のハッチがある。車体前部左側に操縦手用ハッチが一つ。

ハッチは合計三か所だけだ。その他に一つだけ車体下部、操縦席の下に非常用の脱出ハッチがあるが、訓練と実戦以外では使わない。しっかりと戦車内部からロックされていたそうだ。(P20)

これがナナヨンだ！

国産二代目の主力戦車
三菱重工業製
車体長 6.70m

稜線射撃と行進間射撃も可能
有効射程距離は弾種にもよるが 3km 程度

(P334)

主砲 51口径 105mm ライフル砲 L7A1
砲弾は当初 APDS と HEP
現在では APFSDS と HEAT-MP

サーマルジャケット
74式車載 7.62mm 機関銃（主砲同軸）
ヘッドライト 管制前照灯 サイレン
ウインカー
アクティブ型赤外線暗視装置

ドーザー付 74式戦車



甲斐も続く。黄色いテープを軽やかに跨ぎ、
横に立つて七四式戦車を見上げた。全長九・四メートル、
全幅三・一八メートル、標準姿勢の全高二・二五メートル、
全備重量三十八トン。
大きくて高い——最初に戦車を見た時と同じ感想を思う。
さすが陸戦の王者だ。威圧感がある。
そして美しいなと思った。(P50)

「砲手、徹甲、右前方、二の台、戦車」
続けて車長の赤川が、早口で射撃指示を出す。
焦った声だ。砲手の柳の復唱の声と、装填手の高木の、
「装填よしつ」の声がヘッドセットから聞こえてくる。
「撃つ！」
一拍置いた柳の復唱と同時に、
射撃音が車内にも響き渡る。(P334)



74式 60mm 発煙弾発射機

12.7mm 重機関銃 M2

投光器

キューポラ



車体番号 桜の官品マーク

乗降ハッチは3か所 + 脱出用ハッチ
車長、砲手用ハッチ

操縦手用
ハッチ

車長、砲手用ハッチ

アンテナ

装填手用ハッチ

車体下部 脱出用ハッチ



最高速度 53km/h

エンジン 三菱 10ZF22WT

空冷 2ストローク V型 10気筒

ターボチャージド・ディーゼル

720PS/2,200rpm

排気量 21,500cc

搭載できる燃料は主タンクに約七百八十九リットル。

もちろん戦闘行動中はもっと燃費が悪くなる。



潜水キットを取り付けることで2メートル強の潜水渡河が可能

乗員 4名

車長：1佐～2曹

砲手：1曹～3曹

操縦手：3曹～1士



砲手：1曹～3曹

操縦手：3曹～1士

戦車にはエアコンなどは付いていない。いや夏は暖房、冬は冷房だ。七四式戦車の操縦手席の右足元には、エンジンの熱を利用した暖房器具が付いているが、北海道に配属された先輩の話では、まるで役に立たないそ

うだ。(P354)

ミスが乗員全員に、又は小隊、中隊に影響を及ぼす。それゆえ、家族以上に密接な時を過ごし、分かり合えなければとても一緒に行動できない。(P173)

「前へ！」復唱と同時にクラッチペダルを緩めながら、アクセルペダルを踏み込む。目の前の回転数計が右端に振れる。空冷ディーゼルエンジンの甲高い音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席で、狭い三面のペリスコープからの視界に神経を集中させていた。大きめの筆箱のようなペリスコープが前方、右前方、左前方と並んで三つある。非常に視野は狭く、ハの字型の操向ハンドルを握る手のひらに、汗がじみ手袋が湿った。(P334)

今回、訓練に割り当てられた、坂本たちの乗っている七四式戦車は、車体前方に障害物除去用の排土板——ドーザーブレードが付いている。

車体の重心やバランスが通常の七四式戦車と違い、操縦が難しい。(P334)